

わたしの好きな

よ

No.158

2009
6
平成21年

平成21年6月1日発行
発行／寄居町

編集／総務課

〒369
1292

埼玉県大里郡寄居町大字寄居118001
TEL 048-581-2121
FAX 048-581-5100

立夏を過ぎ、ひと月余り。暦のうえでは「夏」となりました。

一昨年は熊谷市で日本最高気温、寄居町でも過去最高の39.5度となり、記録を更新したのは記憶に新しいところです。

写真は、涼しさを求める人で例年にぎわう、かわせみ河原を望んだものです。毎年、5月の連休あたりから夏休みの終わる8月下旬まで、ここはパーベキューやカヌーを楽しむ人たちが集まります。川の博物館も隣接しているため、土日ともなれば、河原は車でいっぱいになります。また、フナ、ウグイなどの魚や、緑も多いため野鳥もたくさん生息してい

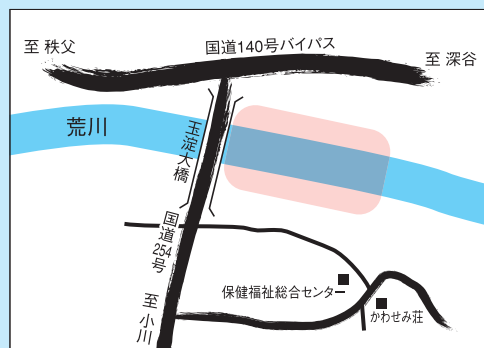


<涼を求めて>

ます。

写真でもわかるように、また清流の名にふさわしく、川底まで見える流れは「水の郷」を象徴しています。

これからますます暑くなりますが、清流を眺めながら納涼を味わってみてはいかがでしょうか。改めて寄居の素晴らしさを感じられると思います。



わが町の

達人

No.27
吹きガラスの達人



井上美和子さん・井上教広さん(上の原)

ガラスの色は、何色？

透明であるガラスが不思議です。とても不思議でたまりません。10年、20年、未だに分かりません。それが楽しいのです。

ガラスを作る人の楽しみを話します。

その昔、代々と秘密に守られてきた世界。

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

1300℃の夕焼け色に煮えるとても柔らかで、あつあつのガラス。棒の先に、光と共に巻き取られたあつあつを肩口まで掲げ“フー”と息を送り込む。息の量と同じに膨らむあつあつは柔らかかに次のかたちに伸びる。

それをくるとりくるとり、自由に、素直に手助けすると、しだいに動きがゆるやかになり、透明な姿に生まれ変わります。

職人の息を得た花入れのガラスも窓ガラスも、ステンドグラスも、水のをむグラスも、透明な光の色をまとい、ここから生まれ、秘密に大切に受け継がれてきました。

時代は便利さと共に、誇りにしていた手作りの気持ち、職人のこだわりを手放していくようです。

化学が不思議さを消し去るスピードで、物の使い捨ては止まりません。それでも私たちは、不思議さや美しさを忘れず、ガラスに夢を描き続けたいです。

中でも、家々を明るく照らしていた蛍光灯。明るさを失えば埋め立てられてゆく悲しい運命にあった、蛍光管ガラス。

三ヶ山地内の資源循環工場にてそのガラスに、もう一度、息と色と自身とを吹き込み、工芸品として光を当て、用の美を伝えていきます。

長年、好きであり続け、楽しみ続け、不思議さを忘れず喜んで頂ける人がいることで、達人がいるならば、これからも、循環（リサイクル）の輪を次世代へつなげ、たくさんの達人と出会い、ともに楽しみたい。

